

1st day  
5.16 Sat.

## 特別報告

■時 間／ 16:30 ～ 17:00 ■会 場／ 4F 大研修室

テーマ●「変わってしまった女、変わりたくない男  
(男女共同参画の現状)」  
三浦清一郎

2nd day  
5.17 Sun.

## 特別企画

■時 間／ 9:00 ～ 11:30 ■会 場／ 講堂

### ■第1部

インタビュー・ダイアログ●(9:10～ 10:20)  
小学校教育の革新—現在進行形

登壇者●浜田 満明 (島根県出雲市立今市小学校校長)



「生きる力」は実践を通して体得するしかない、基礎基本の徹底は「系統的」、「段階的」、「計画的」にか、学校運営の基本姿勢である。主要プログラムは「読書の定着」、「宿泊体験活動」、「生活リズムと身体づくり」、「保幼小中の接続」。体験活動も連携事業も同様のプログラムはどこにでもあるが、教育の核心は実践の内容基準を高く維持して、目指した子どもの変容を達成することである。

登壇者●三角 幸三 (熊本県宇城市立豊福小学校校長)



学校運営の軸足を地域の学校支援・学校の地域貢献に置き、地域との連携・共生を双方向、同時進行で進めている。指導の素材を食文化、伝統文化にもとめ、保幼小中高大との縦の連携、各種地元企業・団体の協力を基盤とする横の連携をシステム化して、多様なキャリア教育、体験活動のプログラムを展開している。文部科学省「学校地域支援本部選定委員」、同「生活リズム向上指導資料作成委員」を務めている。

登壇者●坂元 正博 (長崎県壱岐市立霞翠小学校校長)



平成14年から長崎県の「タフな子どもを育むための実践モデル事業」を3年間、続いて、文科省の「コミュニティスクール推進事業」を2年間進めてきた。学校支援ボランティアをシステム化し、環境整備から教科指導まで、児童変容の成果は著しく、各領域で地域との協力体制は群を抜いている。平成19年度には、地域との連携を応用して文科省の「放課後子ども教室推進事業」の委託を受け、地域スタッフによる多様な教育プログラムを展開している。

コーディネーター●森本 精造 (飯塚市教育委員会教育長)



福岡県社会教育課長、県立社会教育総合センター所長、穂波町教育委員会教育長を経て、現職。穂波町教育長時代に西日本で初めて町内全公立小学校に「学校選択制」を導入。併せて子どもの「生きる力」、子どもの居場所確保を目的に全小学校に「穂波子どもマナビ塾」を創設。その後、飯塚市教育長として、高齢者の学習と社会参加を重視した「熟年者マナビ塾」を飯塚市内の全公立小学校に創設。幼老共生と学社連携の強化を視野に入れた事業を全市で推進中。